

令和5年度 杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	119	学校名	仙台市立栗生小学校	校長名	松田 修一
------	-----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル, テーマ

「SDGsに貢献しよう～学校給食を通して～」



2 取組の紹介

仙台市では、学校給食に化学肥料や農薬を使う量を通常の半分以下に減らした「環境保全米」が提供されています。本校では、5年生の「総合的な学習の時間」で、栄養教諭が環境保全米について講話をしたり、児童が課題を設定し調べ学習をしたり、個人のタブレット端末で学習支援ソフトを使って環境保全米についてCMを作成したりしています。そのCMを給食時間に全校に向けてテレビ放映しています。

また、本校は自校給食を採用し、流通の面で環境への負荷が少ないと言われている「地産地消」にも力を入れています。給食調理に使用する約50%の食材を県内から調達しています。例えば、宮城県で生産された銀鮭や地元農家の野菜など、地場産の食材を使った給食を提供しています。

給食の残食を減らすために、教員が工夫して給仕するとともに、給食委員会の児童がポスターを作成して配膳室付近に掲示したり、給食時間の放送で呼び掛けたりしています。摂食時間を確保し味わって食べられるように、配膳などの準備を協力し合っています。



<配膳室前の掲示物>

給食週間では、学級活動の時間に、給食室の皆さんや食材を届けてくださる業者や農家の方へ感謝の手紙を書きました。給食に携わる方へインタビューした動画を作成し、各学級で視聴しました。



<環境保全米について>

左：総合的な学習の時間の授業の様子

右：児童が作成したCM

3 取組の成果 (児童生徒の変容)

「環境保全米」の学習を通して農家の方々の願いや苦勞を知り、感謝の気持ちを持って食べることや残食を減らそうとする思いが更に高まりました。給食時間に全校に向けて放送することで、低学年の児童にも分かりやすく伝わり、正しい食生活への関心が高まっています。また、給食の残食は堆肥にするので、下膳の際にストロー等が混ざらないようにゴミの分別にも気を付けています。